

第 7 5 次 印旛地区教育研究集会 特別支援教育

第 1 3 分科会 特別支援教育

研究主題

八街北中学校 特別支援学級（知的）における安全教育の指導・支援について

印旛支部

令和 7 年 8 月 22 日

八街市立八街北中学校

小笠原栄一

## 1 研究主題

八街北中学校 特別支援学級（知的）における安全教育の指導・支援について

## 2 学級と在籍生徒の概要

令和6年度 ※（ ）内は女子人数

3年生3名 2年生4名（1名） 1年生4名（1名） 計11名（2名） 2学級

令和7年度 ※（ ）内は女子人数

3年生4名（1名） 2年生4名（1名） 計8名（2名） 1学級

本学級では「充実した中学生生活の実現と卒業後の自立した生活に向けて、学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養うこと、養おうとすることができる生徒。」の育成を目指して支援を行っている。

学校生活の半分程度から大部分を本学級で過ごし、交流は体育と音楽、体育祭等の行事を主とする生徒が多い。全く交流しないで、本学級で学校生活の全てを過ごす生徒もいる。

生徒の学力は、小学校低学年の学習内容は概ね理解できているが、小4の学習内容になると5割に届かない。学習意欲にも大きな差があり、取り組む教科にもよるが、50分間の授業のうちの大部分を集中して取り組める生徒もいれば、1分ももたずに筆記用具を触り出したり、周囲の生徒の様子を気にし出したり、勉強以外のことを考え始める生徒もいる。彼らが学習課題に取り組み、1回でその内容が定着することは稀である。繰り返し学習し、定着したと思われる内容でも、しばらくすると忘れていくことが多い。定着するまで、繰り返し、同じ問題に取り組む必要があり、時間をおいてから、覚えているかどうか再確認する必要もある。

学力の定着も大事だが、50分間、落ち着いて、集中して取り組めるかどうかの忍耐力、ぼんやりしない、居眠りをしない、周囲に迷惑をかけないといった授業に取り組む姿勢を指導していく方が大事な生徒もいる。こちらの方の課題が大きい生徒も多い。

## 3 主題設定の理由

安全教育については、年度始め、学期始めに取り組む地震と火災の避難訓練が思い浮かぶ他に、交通安全週間等の登下校指導、熱中症予防、朝の会や帰りの会、授業中や休憩時間中、給食時等々、学校生活全体を通して、取り組んでいる。計画的に取り組む指導もあれば、臨機応変に対応する指導もある。様々な学習形態、学習単位で取り組んでいる。生徒にとっても、小学校の頃から取り組んでいること、指導されている内容がほとんどで、高学年～中学生になれば、特に目新しい学習内容というものでもなくなっている。安全教育は学校生活の中で、当たり前のように行われているし、大きな事故に遭遇することがなければ、特に問題視される、クローズアップされることの少ない指導ともいえる。

八街北中学校では、令和6・7年度の2年間、安全教育の研究指定校として研究に取り組んでいる。全校での研究主題は「地域の一員として、自ら学校・地域の安全に目を向け、主体的に関わることができる生徒の育成」である。本学級でも2年間に渡って、生活単元学習や学校生活全体を通して安全教育に取り組んでいる。生徒たちの様子を考えると、彼らが地域の一員として、目覚ましい活躍を見せたり、存在感を見せつけたりしていくことは難しいだろう。まずは、周囲に迷惑をかけることなく、周囲から最小限の支援で避難する、安全に学校生活を過ごす、地域で事故やトラブルに巻き込まれないように過ごすことを目指し、安全教育に取り組

んでいく。

#### 4 研究仮説

##### 仮説 1

学校生活全体を通して取り組む安全教育に加えて、視聴覚教材を取り入れた学習・プリント等を使った机上の学習、自然災害の疑似体験ができる体験学習、ロールプレイング学習等々、様々な学習方法で計画的に取り組むことで、安全・防災に関する知識が広がるだろう。

##### 仮説 2

学校全体、学年毎、小学生と合同、学級単独等々、学習内容や学習方法、生徒の様子に合った学習単位（形態）で取り組むことで、安全・防災に関する興味・関心が高まるだろう。

本学級の安全教育で取り組む内容は下記の通りである。

- I 自然災害と防災・減災をテーマに地震・豪雨・雷・火災等の概要を学習し、災害に遭った際の予想される状況（災害の概要）、自分の命は自分で守るための一次避難の方法（自助）、災害に遭った際に、被害を最小限するために日頃から気を付けることを知る・考えること。（防災・減災）
- II 熱中症や登下校時、教室や校舎内、授業中や休憩時間中、給食時等で、事故に遭う、ケガをする際の状況、事故に遭わないようにするために日頃から気を付けること、事故に遭った際にとるべき行動を知る・考えること。（生活安全）
- III 不審者や犯罪現場に遭遇しないように気を付けること、遭遇したり、巻き込まれたりした際の対処の仕方を知る・考えること。（防犯）
- IV SNS を使った詐欺や闇バイトの犯罪の事例を知り、巻き込まれないために気を付けること、巻き込まれた際の対処の仕方を知る・考えること。（防犯）

本学級に在籍する生徒が、安全教育に取り組む際に学習する集団の単位（形態）は、下記の通りである。先述の学習内容を下記の学習単位（形態）で取り組んでいる。

- ① 学校生活全体を通して（日常生活指導として）取り組んでいる安全教育（主に生活安全）
- ② 学校全体で取り組む安全教育
- ③ 各学年で総合的な学習の時間等に取り組む安全教育
- ④ 朝陽小学校知的障害特別支援学級（以降、双葉学級）と合同で取り組む安全教育
- ⑤ 本学級のみで取り組む安全教育

#### 5 実践の概要・成果・課題

本学級に在籍する生徒が、令和6～7年度6月末までに取り組んだ実践の概要・成果・課題は、以下の通りである。

- ① 学校生活全体を通して（日常生活指導として）取り組んでいる安全教育（主に生活安全）  
主に学級担任が指導するが、指導が必要な場面にいる職員が指導することもある。学級単位での指導が主であるが、全職員で指導にあたっているともいえる。毎日の学校生活（始業式～修了式まで）の中で取扱う生活安全。生徒指導的な側面がある。

## i 朝の会、帰りの会、清掃、給食、休憩等々、学校生活の中で行う安全指導

### 《概要》

通常の学級に比べて、細かく、繰り返し、声をかけて指導している。朝の会では、その日の予定に合わせて、安全面で気を付けることがあれば確認をする。暑い日は熱中症に気を付ける。雨の日は、廊下や床が滑りやすいので気を付ける。前日に指導した内容があれば、同じことで指導をされないように確認をする。等々。

授業が終わる際に、次時の授業と休憩時間の過ごし方を確認する。教室や廊下を走らない。教室のドアや窓の開閉時は勢いをつけずに、ゆっくり行う。当然、それだけで徹底されることではないので、そういう場面を見かけた時は声をかける。筆記用具等の先の尖ったもの、刃物の取扱いに注意する。机やイスの取扱いに注意する。授業の中でも小まめに声をかけているので、徹底されている。

仲間や先生、他人に暴力をふるわない。また、仲間や先生、他人に暴言を言わない。男子生徒同士では、気になる行動が多く見られるので、大きなトラブルや生徒指導に至らないように、声を強めて制止することもしばしばある。

壁、床、学校のもの、自分自身のもの、どれも取扱いに注意する。物の弾みであったり、気持ち不安定であったりする時に、乱暴になる時は声をかける。スムーズに安全に給食準備に取りかけられるように、分担や手順を固定するとともに、食缶の重さや温度を確認し、「重いよ」とか「熱いよ」と生徒に予め伝える。

登下校時は、交差点や信号機の渡り方、歩道を歩く、決められた通学路を利用する等、交通ルールを守ることについて、帰りの会の中で、長期の休みに入る前の学活の中で、指導している。

### 《成果》

大きな生活事故・登下校時の交通事故が起こることがなかった。生活事故・交通事故の予防に役立っていると思われる。

令和6年度の4～5月にかけては、本学級生徒が下校時にふざけながら下校していて危ないという近隣住民からの通報が数回あった。その翌日には、当該生徒と学級全体に指導をした。その都度、繰り返し指導することで、6月以降、近隣住民からの通報もなくなった。交通事故に遭う生徒もいなかった。

### 《課題》

教師の働きかけ（指導・支援）を外す見極めが難しい。それを外すことで、大きな事故、ケガにつながる可能性もある。安全を優先すると、生徒に任せきることが難しい。学習（指導された）内容が定着しているかどうか確認できない状況がある。

## ② 学校全体で取り組む安全教育

### i 地震と火災の避難訓練

#### 《概要》

年度始めと学期始めに学校全体で取り組む地震と火災の避難訓練（令和6年度は3回、7年度は1回）に事前学習～本番～事後学習に取り組んだ。避難訓練は小学校の頃から毎年、毎学期始めに実施している。1次避難・2次避難の方法の確認、おはしもの確認、避難場所と避難経路の確認をし、実際に避難をした。加えて教師と生徒に実施日・時間・場所を伝えずに抜き

打ちで行うシェイクアウト訓練にも、令和6年度は3回取り組んだ。いずれも「まず低く」「頭を守り」「動かない」の1次避難が、慌てることなく、落ち着いて実践できていた。7年度も3回実施する予定である。

#### 《成果》

学習内容の定着が図りにくい特性もあるが、小学校からの積み重ねもあり、よく取り組めていた。学習内容が定着していることと、安全に対する意識の高さを確認することができた。

#### 《課題》

訓練を通して課題は見当たらないが、実際に大きな揺れの地震や火災に遭遇した際に、自宅や学校以外の場所で、また一人の状況で訓練と同じ行動がとれるかどうかは課題である。

- ii 学校全体で取り組む登下校指導 / 自転車通学者対象の交通安全指導、自転車点検  
本学級には3名の自転車通学の生徒が在籍している。

#### 《概要》

毎月1回と6月下旬の週は、全職員で登下校指導を実施している。指導が必要な場面があれば、その場にいた職員、担任で、その都度、指導していく。登下校時は、交差点や信号機の渡り方、歩道では自転車を押して歩く、決められた通学路を利用する等、交通ルールを守ることについて、帰りの会の中や長期休みに入る前の学活の中で、指導している。

年度始めに自転車通学者全員が集められ、自転車通学者交通安全教室が実施されている。

月1回、自転車点検を行っている。

#### 《成果》

大きな交通事故、転倒等による外傷、近隣住民からの通報等もなく、安全な登下校と自転車運転、交通事故の予防に役立っていると思われる。

#### 《課題》

学校周辺の通学路の登下校指導を定期的実施しているが、全生徒の学校～自宅間の全ての様子を確認できていないわけではない。自転車通学者は、更に遠い距離から通学しているため、より難しい。届け出ている通学路とは別の道を利用していたり、寄り道をしていたりする可能性もあるが、近隣及び他生徒からの通報がない限りは、わからない状況もある。

### ③ 各学年で総合的な学習の時間等に取り組む安全教育

自然災害の概要、その防災・減災について学習をする。

自助（1年）・共助（2年）・公助（3年）について学習する。

#### 1年生

年度始めに交通安全教室が実施されている。

佐倉消防署への校外学習

令和7年度、本学級に1年生は在籍していない。

#### 2年生（令和6年度は1年生）

##### i 小中合同防災体験教室 R06/10/2

#### 《概要》

当時の本校中学1年生と朝陽小全児童が、合同で取り組む防災体験学習に、本学級の1年生

（現在の２年生）も参加した。起震車を使った震度５の地震体験。テントの中で無害の煙を発生させ、その中を非難する煙避難体験、朝陽小学校の避難シューターを使った避難体験に取り組んだ。

#### 《成果》

避難シューターを使うのが初めての生徒ばかりで貴重な体験となった。生徒からは「真下にもっと速く滑り落ちると思ったら、らせん状に落ちるので、不思議な感じだった。」「スムーズに滑るにはコツが必要。」等という感想も聞かれた。実際に火災に遭った際には、役立つ機会に遭遇しないことが一番良いことであるが…この体験が役立つだろう。

#### 《課題》

生徒全員がシューターを滑り降りる体験ができたが、シューターを準備するのは消防署員で、教職員は、その様子を見るだけのものとなった。難しいものではないが、実際に火災に遭遇し、シューターで避難する時に、シューターの準備にあたるのが、消防署員ではなく、教員である場合があることを考えると、全職員が体験する必要がある。

単発の体験で繰り返し取り組むことができず、学習内容が定着できているかどうか確認できない。

### ii 本所防災館（東京消防庁 都民防災教育センター）への校外学習 R07/6/17

#### 《概要》

当該学年の東京都墨田区にある本所防災館への校外学習に参加し、地震、火災（煙避難体験）、暴風雨、水害の防災体験ツアーに参加した。

本学級の２年生にとっては、前述の防災体験学習 R06/10/2、後述の千葉県西部防災センターへの校外学習 R06/11/7（令和６年度時は１年生）に続いて、３回目の防災体験ツアーとなった。

#### 《成果》

自然災害や火災、危険な状況を安全に繰り返し体験することができれば、避難の仕方や安全の確保に向けた臨機応変な対応も定着しやすくなるだろう。しかしながら、自然災害や火災を体験することはできない。自然災害や火災の現場に行って、危険を承知の上で体験させることなど許されるはずもない。本所防災館では、概要で述べた災害の内容を安全に体験することができる。災害の概要を安全に体験できたことは、貴重な体験であった。

#### 《課題》

単発の体験で繰り返し取り組むことができず、学習内容が定着できているかどうか確認できない。

### ３年生（令和６年度は２年生）

#### i 防災備蓄倉庫の見学と避難所設営の体験（仮設トイレと段ボールベッドの設営） R07/04/22

##### 《概要》

当該学年の総合的な学習の時間で、八街市防災課職員を講師に招いて取り組む防災学習に参加し、本校敷地内にある備蓄倉庫の見学と説明、段ボールベッドの組立の体験、仮設トイレの設置の体験、避難所のレイアウトの作成に取り組んだ。

##### 《成果》

避難所生活の一部、断片を垣間見ることができた。

#### 《課題》

単発の体験で繰り返し取り組むことができず、学習内容が定着できているかどうか確認できない。

#### ④ 双葉学級と合同で取り組む安全教育

##### i 千葉県西部防災センターへの校外学習 R06/11/7

#### 《概要》

千葉県西部防災センターへ行き、防災体験ツアーに双葉学級との縦割り班で参加した。

消火器を使った「火災の消火体験」・「119番通報体験」・最大風速30m/sの「猛烈な風」を体験する「風水害体験」・震度5の揺れを体験する「地震体験」・煙が充満した室内で床を這いながら避難の体験ができる「煙避難体験」に取り組むことができた。

#### 《成果》

先述の本所防災館への校外学習 R07/6/17 で述べた《成果》と同様である。

加えて、双葉学級との縦割り班で取り組んだことで、中学生が小学生の手を引いたり・つないだりして取り組む、怖がっている小学生を励ます、消火器の使い方や119番通報では中学生が先に手本を見せてから小学生が取り組む、といった場面を見ることができた。実際に災害に遭った際、避難所へ向かう途中や避難所の中で、彼らが年少の子どもの面倒をみることができるであろう様子を垣間見ることができたことも貴重な体験となった。

#### 《課題》

単発の体験で繰り返し取り組むことができず、学習内容が定着できているかどうか確認できない。

##### ii 青い麦の子ふれあい事業「卒業生を送る会」での学習発表 R07/2/7

#### 《概要》

八街市中央公民館で実施された青い麦の子ふれあい事業「卒業生を送る会」での中学校区毎の学習発表では、総務省消防庁のHPに載っている「防災紙芝居」の内容を抜粋した寸劇「防災芝居クイズ」に取り組んだ。寸劇の練習、小道具作りを通して、小学生も中学生も、様々なシチュエーションで自然災害や火災に遭遇した際の正しい避難の仕方、間違った避難の仕方、災害に遭った際の正しい対処法、間違った対処法を、繰り返し確認することができた。当日は大勢の来場者が見守る中、コミカルな小道具、小学生の軽快な動き、中学生のナレーションがマッチして、中学3年生にとっては思い出に残る、中学1・2年生にとっては、今後の自信につながる素晴らしい発表になった。

#### 《成果》

災害の場面を想定し、台詞も含めて体を動かして、繰り返し演じる（練習する）ことや、来場者の前で発表することで、プリント等を使った机上の学習や防災動画を繰り返し視聴するよりも、より確かな学習内容の定着につながった。令和7年度も R08/02/06 で実施する予定。

#### 《課題》

練習～本番～事後指導を通して、課題は見当たらないが、実際に大きな揺れの地震や津波、火災に遭遇した際に自宅や学校以外の場所で、一人の状況で、同じ行動がとれるかどうか課題である。

## ⑤ 本学級のみで取り組む安全教育

### i 年度始めの始業式、入学式後の学活～学校生活の中で話題にする内容

#### 《概要》

① 学校生活全体を通して(日常生活指導として)取り組んでいる安全教育(主に生活安全)

i 朝の会、帰りの会、清掃、給食、休憩 等々、学校生活の中で行う安全指導の中で扱う内容の大部分を、時間をかけて確認した。

給食準備・後片付けの際の安全面については、毎学期、給食開始日の4校時目の授業の中で、時間をかけて確認した。

作業学習で使用するスコップ、移植ごて、カマ、オープンレンジ、アイロン、木工用工具、カッターナイフ等の取扱いと片付けは、4月当初から指導し続けている。

事故等が起こってから指導するのではなく、始業式、入学式の日から指導をしている。朝の会では、その日の日課及び授業内容を確認し、生活事故を起こさないように気を付けることを端的に伝えておく。給食時に気を付けることは、給食準備の前に、授業中に筆記用具や工具、刃物を使う際には、その前に等々、生活事故が起こりやすい場面では、その直前にも気を付けることを確認し続けている。

#### 《成果》

大きな生活事故が起こることがなかった。生活事故の予防に大いに役立っていると思われる。2学期中頃からは、教師が気を付けることを伝える前に、生徒同士で気にかける、注意し合う場面も見られるようになってきた。

#### 《課題》

教師の働きかけ(指導・支援)を外す見極めが難しい。それを外すことで、大きな事故、ケガにつながる可能性もある。安全を優先すると、生徒に任せきることが難しい。学習(指導された)内容が定着しているかどうか確認できない状況がある。

### ii 学活や総合的な学習の時間、理科や社会科の時間に取り組む安全教育

#### 《概要》

学校全体・交流学年・交流学級では、安全教育の中の自然災害とその防災・減災についてから学習をする。本学級のみでの取り組みでも、全体の内容に合わせて、安全教育の中の自然災害とその防災・減災についての学習からスタートをした。

学活や総合的な学習の時間、生活単元学習の時間に、NHK for school の安全教育コンテンツを視聴した。

「学ぼう BOSAI」「キミも防災サバイバー」…災害の仕組みと概要、防災・減災について

「キキとカンリ」「子ども安全リアルストーリー」…交通安全や学校生活の中での安全指導

「スマホリアルストーリー」「姫とボクはわからない」…SNS 等からのトラブル云々

#### 《成果・課題》

災害の概要とその防災・減災については、過去の災害の概要と被害の状況、防災・減災のための対策を映像で見ることができた(成果)が、それだけでは、想像できず、興味・関心が薄いようだった。(課題)交通安全や学校生活の中での安全指導、SNS 等からのトラブル云々については、身近な話題ということもあって、生徒同士で感想を述べる場面、フリートークで盛り上がる場面も見られた。(成果)

### 《概要》

並行して理科の授業の中でのプリント等を使った自然災害の概要の学習や、社会科の授業の防災・減災に関する学習、避難所での生活、自助・共助・公助の学習にも取り組んだ。

同じ学習内容に繰り返し取り組んだからといって、学習内容の定着が図られるかというと、そうではない。彼らが学習課題に取り組み、1回でそれが定着することは、非常に稀である。繰り返し学習し、定着したと思われた内容でも、しばらくすると忘れてしまっていることが多々ある。学習内容が定着するまで、繰り返し、同じ問題に取り組む必要があり、時間をおいてから覚えているかどうかを再確認する必要もある。短期的に、長期的に同じ学習内容、プリントに繰り返し取り組むことで、徐々に正答率が高まり、学習内容の定着が図られることを期待した。

### 《成果・課題》

彼らの多くが、筆記用具を使って書き写す、問題文を読んで、考えて、解くということを、著しく苦手にしている。意欲的な取り組みまでには至らなかった（課題）が、同じ学習内容、プリントに繰り返し取り組むことで正答率が高まった。（成果）

iii 犯罪に巻き込まれない、犯罪を起こさないために、スマホやSNSの使い方に気を付ける。

令和6年度当初、本提案で取扱う安全教育の指導の内容には含まれていなかったが、闇バイト事件とその報道が頻発し、社会問題となる中で、生徒も関心を示すようになり、取扱うことにした。

### 《概要》

ニュースで話題になるSNSのトラブルの事案、闇バイトの話題など、報道番組の動画を視聴しながら、フリートークをした。日頃から、その手の話題を生徒に投げかけたり、生徒同士の会話に耳をそばだてたり、関与したりした。この手の話題に対する、生徒の興味・関心は非常に高かった。闇バイトやSNS上のトラブル等に巻き込まれないようにするための、千葉県警から出されているリーフレットや動画を使って学習した。

### 《成果》

本学級の生徒全員が自分のスマートフォンを所持している。生徒自身もインターネットでそういった情報を収集し、巻き込まれたくないという意識が強くなった。フリートークの内容によっては、教育相談を行ったり、保護者に連絡をしたりすることもあった。トラブルを未然に防いでいる可能性もある。

### 《課題》

この話題に関する指導に取り組む際に、学校生活にふさわしくない、取り上げにくい内容が含まれていたり、個人情報や家庭生活、家族の様子など踏み込んだ内容に話が及んだりすることがある。

## iv 防災クイズの取り組み

### 《概要》

令和7年度からの取り組みである。前述のii学活や総合的な学習の時間、理科や社会科の時間に取り組む安全教育の成果と課題を受けて、ゲーム感覚で、正解がすぐにわかって、学習内容の定着が図りやすく、より意欲的に取り組めるように、総合的な学習の時間、学活、生活単

元学習の時間の一部を使って、様々なタイプの防災クイズに取り組んだ。始めは動画を見ながら、答えや考えを自由に発言するスタイルで取り組んだ。初見の動画では、盛り上がるが、発言が自由すぎて收拾がつかなくなりがちだった。また、コンテンツにも限りがあり、繰り返し取り組むうちに興味も薄れてきた。

山口県教育委員会が作成した防災クイズをベースに、これまでに取り組んできた防災学習の学習内容を4択問題で100問用意し、問題冊子と解答用紙に分けて、テスト形式の防災クイズに取り組むようにした。クイズという言葉からくる楽しさは、あまり感じられない、いかにもテストという様相で、生徒も乗り気ではなかったが、問題にひねりが無い、ひっかけもない、わからなかったとしても4択問題なので、解答を書き込むことができるため、1回につき、90分程度、授業2回分で取り組んでいた。2回程、取り組んだが、意欲があまり感じられなかったため、定期テストの試験科目に「安全防災テスト」で同じ問題を出題すること、その結果を保護者にも報告することを伝えた。答え合せも10問ごと、20問ごと、50問ごと、100問ごとと、その時の生徒及び学級全体の様子で実施し、すぐに正解が確認できるようにした。テスト1週間前からは毎日実施し、意欲的に取り組むようになった。生徒によっては、問題を最後まで読まなくても、正解がわかるようになっていった。

#### 《成果》

定期テストに合わせて、テスト形式で実施するようにしたことで、そこで点数を取ることが目標になり、防災に関する知識が広がった。

#### 《課題》

テスト形式・講義形式で繰り返し取り組むスタイル、盛り上がりせず、生徒からの評判は良いとは言えなかった。主体的な取り組みとは言い難くなってしまった。

### 6 まとめと今後に向けて

本学級に在籍する生徒全員が、学習内容の定着を図るためには、繰り返し取り組むことが必要である。暑い日が続く際の熱中症予防対策や注意報レベルの大雨・大風、登下校時の交通安全、学校生活の中での生活安全については、小さい失敗をすることはあっても、これまでの経験の積み重ねで、ある程度は対応できるであろう。

社会や理科の授業で触れる、扱う、安全教育の内容や防災クイズは、主体的な取り組みとは言い難く、やらされている感が強かったが、覚えなければならない学習として、繰り返し取り組み続けることで、防災に関する知識は広がった。

安全教育の学習内容を、教室、机上、電子黒板等を使った授業の中で定着させることは難しかった。それよりも、小学校の頃から取り組み続けている避難訓練、朝の会や日々の授業、学校生活の中で必要に応じて、繰り返し指導し続けている生徒指導・日常生活指導的な関わり、寸劇「防災芝居クイズ」の練習に繰り返し取り組むことで、プリント等を使った机上の学習や防災動画の視聴よりも、効果的に効率よく覚えることができ、学習内容の定着につながった。

小中合同防災体験学習、千葉県西部防災センターへの校外学習、本所防災館への校外学習は、災害の概要と正しい対処の仕方を安全に体験できる貴重な機会だった。経験しているとしていないでは、大きな違いである。自然災害に遭遇する機会があれば、この経験が役立つと思われる。

「5 実践の概要・成果・課題」で述べた概要・成果を踏まえて、仮説1・仮説2は立証さ

れたといえる。

大きな被害を伴う自然災害については、前述の校外学習や動画の視聴等で学習はしているものの、それが定着しているかどうかを見極めるのは、災害に遭遇してみないと確認できない。見極める機会が来ないことが一番良いことなので、それを願うのみである。

今回の研究の取り組みは、指定を受けたことによる受動的な始まりだったが、教員側が安全教育を系統的に指導することを意識しながら、実際に指導していくことで、生徒の安全・防災に対する意識が高まり、それに対する知識も広がったことが伺えた。この点からも、仮説1・仮説2は立証されたといえる。

主題設定の理由で、本学級の生徒が、①地域の一員として、目覚ましい活躍を見せたり、存在感を見せつけたりしていくことは難しいだろう。②周囲に迷惑をかけることなく、周囲から最小限の支援で避難する、安全に学校生活を過ごす、地域で事故やトラブルに巻き込まれないように過ごすことを目指し、安全教育に取り組んでいく。と述べた。1年半の実践で②は充分達成されている。難しいと考えていた①についても双葉学級と合同で取り組む安全教育を通して、実際に災害に遭った際、彼らが避難所へ向かう途中で、避難所の中で、年少の子どもの面倒をみることができるであろう様子を垣間見ることができている。教員側の予想を超える成果を上げているともいえる。

安全教育の研究指定校として、残すところ半年であるが…

これまでの実践を継続するとともに、ここまで、本学級では充分に取り組めていない、地域連携・家庭連携にも取り組んでいきたい。安全点検についても、教員が実施している安全点検と併行して、生徒用机とイス、ロッカー、下駄箱、教室、廊下、トイレ等々、生徒自身が生徒目線で安全点検を実施し、自分自身の持ち物や校舎、備品等に対する安全意識をさらに高めることができるようにしていきたい。

## 7 参考文献等

中学校学習指導要領 文部科学省 / 特別支援学校学習指導要領 文部科学省

「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育 文部科学省

図解でわかる14歳からの自然災害と防災 社会応援ネットワーク

千葉県西部防災センター / 千葉県防災ポータルサイト

POLICE NET CHIBA 千葉県警察

防災紙芝居 総務省消防庁 / クイズで防災を学ぼう 消防庁動画チャンネル

防災クイズ 山口県教育委員会 / NHK for school

防災学習ポータルサイト 国土交通省

おうちで防災を学ぼう！リモート防災学習 東京消防庁

本所防災館（東京消防庁 都民防災教育センター）

第75次 印旛地区教育研究集会 特別支援教育

第13分科会 特別支援教育

研究主題

八街北中学校 特別支援学級（知的）における安全教育の指導・支援について

令和7年8月22日

八街市立八街北中学校

小笠原栄一

3 主題設定理由

本校では令和6・7年度の2年間、安全教育の研究指定校として研究に取り組んでいる。  
全校での研究主題は  
「地域の一員として、自ら学校・地域の安全に目を向け、主体的に関わることができる  
生徒の育成」である。  
本学級でも2年間に渡って、生活単元学習や学校生活全体を通して安全教育に取り組む。  
生徒たちの様子を考えると、  
彼らが地域の一員として、目覚ましい活躍を見せたり、  
存在感を見せつけたりしていくことは難しいだろう。  
周囲に迷惑をかけることなく、周囲から最小限の支援で避難する、  
安全に学校生活を過ごす、地域で事故やトラブルに巻き込まれないように過ごすこと  
を目指し、安全教育に取り組んでいく。

主題設定理由の詳細については資料2ページを参照

4 研究仮説

仮説1

学校生活全体を通して取り組む安全教育に加えて、  
視聴覚教材を取り入れた学習・プリント等を使った机上の学習、  
自然災害の疑似体験ができる体験学習、ロールプレイング学習等々、  
様々な学習方法で計画的に取り組むことで、安全・防災に関する知識が広がるだろう。

仮説2

学校全体、学年毎、小学生と合同、学級単独等々、学習内容や学習方法、  
生徒の様子に合った学習単位（形態）で取り組むことで、  
安全・防災に関する興味・関心が高まるだろう。

本学級の安全教育で取り組む4つの内容、  
本学級に在籍する生徒が安全教育に取り組む際に学習する5つの集団の単位  
については、資料3ページを参照

5 実践の概要・成果・課題①

本学級に在籍する生徒が  
令和6～7年度6月末までに  
取り組んだ実践

資料3～10ページを参照

## 5 実践の概要・成果・課題②

## ① 学生生活全体を通して（日常生活指導として）取り組んでいる安全教育（主に生活安全）

資料 3 ページ 3 7 行目から

主に学級担任が指導するが、指導が必要な場面にいる職員が指導することも多々ある。学級単位での指導が主であるが、全職員で指導にあたっているともいえる。毎日の学校生活(始業式～修了式まで)の中で取扱う生活安全。生徒指導的な側面がある。

概要の詳細と成果については資料 4 ページを参照

5

## 5 実践の概要・成果・課題③

## ② 学校全体で取り組む安全教育

## i 地震と火災の避難訓練

資料 4 ページ 3 2 行目から

## 《概要》

年度始めと学期始めに学校全体で取り組む地震と火災の避難訓練（令和 6 年度は 3 回、7 年度は 1 回）に事前学習～本番～事後学習に取り組んだ。

避難訓練は小学校の頃から毎年、毎学期始めに実施している。1 次避難・2 次避難の方法の確認、おはしもの確認、避難場所と避難経路の確認をし、実際に避難をした。

教師と生徒に実施日・時間・場所を伝えずに抜き打ちで行うシェイクアウト訓練にも令和 6 年度は 3 回取り組んだ。

いずれも「まず低く」「頭を守り」「動かない」の

1 次避難が、慌てることなく、落ち着いて実践できていた。

7 年度も 3 回実施する予定。

6

## 5 実践の概要・成果・課題④

## ② 学校全体で取り組む安全教育

## i 地震と火災の避難訓練

## 《成果》

学習内容の定着が図りにくい彼らであるが、小学校からの積み重ねもあり、よく取り組んでいた。学習内容が定着していることと、安全に対する意識の高さを確認することができた。

## 《課題》

訓練を通して課題は見当たらないが、実際に大きな揺れの地震や火災に遭遇した際に自宅や学校以外の場所で、一人の状況で、訓練と同じ行動がとれるかどうか課題である。

7

## 5 実践の概要・成果・課題⑤

## ② 学校全体で取り組む安全教育

## ii 学校全体で取り組む登下校指導 / 自転車通学者対象の交通安全指導、自転車点検

概要・成果・課題の詳細については資料 5 ページ参照

8

## 5 実践の概要・成果・課題⑥

- ③ 各学年で総合的な学習の時間等に取り組む安全教育  
 全学年が自然災害の概要、その防災・減災について学習をする。  
 自助（1年）・共助（2年）・公助（3年）について学習する。

2年生（令和6年度は1年生）

- i 小中合同防災体験教室 R06/10/2

概要・詳細・課題は資料5ページ38行目から

- ii 本所防災館（東京消防庁 都民防災教育センター）への校外学習 R07/6/17

概要・詳細・課題は資料6ページ17行目から

3年生（令和6年度は2年生）

- i 防災備蓄倉庫の見学と避難所設営の体験（仮設トイレと段ボールベッドの設営）

R07/04/22

概要・詳細・課題は資料6ページ34行目から

9

## 5 実践の概要・成果・課題⑦

- ③ 各学年で総合的な学習の時間等に取り組む安全教育

## 成果

災害の概要を安全に体験できたこと。  
 避難所生活の一部、断片を垣間見ることができたこと。

## 課題

各学年で総合的な学習の時間等に取り組む安全教育における共通の課題は、  
 単発の体験で繰り返し取り組むことができない。  
 学習内容が定着できているかどうか確認することが難しい。

10

## 5 実践の概要・成果・課題⑧

- ④ 朝陽小学校 知的障害特別支援学級（以降、双葉学級）と合同で取り組む安全教育  
 i 千葉県西部防災センターへの校外学習 R06/11/7 資料6ページ7行目～  
 《概要》

- 千葉県西部防災センターへ行き、防災体験ツアーに双葉学級との縦割り班で参加した。  
 ・消火器を使った「火災の消火体験」  
 ・「119番通報体験」  
 ・最大風速30m/sの「猛烈な風」を体験する「風水害体験」  
 ・震度5の揺れを体験する「地震体験」  
 ・煙が充満した室内で床を這いながら避難の体験ができる「煙避難体験」

11

## 5 実践の概要・成果・課題⑨

- ④ 双葉学級と合同で取り組む安全教育  
 i 千葉県西部防災センターへの校外学習 R06/11/7  
 《成果①》

自然災害や火災、危険な状況を安全に繰り返し体験することができれば、  
 避難の仕方や安全の確保に向けた臨機応変な対応も定着しやすくなるはず。  
 しかしながら、自然災害や火災を体験させることはできない。  
 自然災害や火災の現場に行って、危険を承知の上で体験させることなど  
 許されるはずもない。  
 千葉県西部防災センターや先述の小中合同防災体験教室、本所防災館では、  
 概要で述べた災害の内容を安全に体験できる。  
 災害の概要を安全に体験できたことは、貴重な体験であった。

12

## 5 実践の概要・成果・課題⑩

## ④ 双葉学級と合同で取り組む安全教育

## i 千葉県西部防災センターへの校外学習 R06/11/7

## 《成果②》

加えて、双葉学級との縦割り班で取り組んだことで、中学生が小学生の手を引いたり・つないだりして取り組む、怖がっている小学生を励ます、消火器の使い方や119番通報では、中学生が先に手本を見せてから小学生が取り組む、といった場面を見ることができた。

実際に災害に遭った際、避難所へ向かう途中や、避難所の中で、彼らが年少の子どもの面倒をみることができるであろう様子を垣間見ることができた。

13

## 5 実践の概要・成果・課題⑪

## ④ 双葉学級と合同で取り組む安全教育

## ii 背い麦の子ふれあい事業「卒業生を送る会」での学習発表 R07/2/7

資料 7 ページ 2 3 行目～

## 《概要》

八街市中央公民館で実施された背い麦の子ふれあい事業「卒業生を送る会」での中学校区毎の学習発表では、総務省消防庁のHPに載っている「防災紙芝居」の内容を抜粋した寸劇「防災芝居クイズ」に取り組んだ。寸劇の練習、小道具作りを通して、小学生も中学生も、様々なシチュエーションで自然災害や火災に遭遇した際の正しい避難の仕方、間違った避難の仕方、災害に遭った際の正しい対処法、間違った対処法を、繰り返し確認することができた。当日は大勢の来場者が見守る中、コミカルな小道具、小学生の軽快な動き、中学生のナレーションがマッチして、中3生にとっては思い出に残る、中1・2年生にとっては、今後の自信につながる素晴らしい発表になった。

14

12

14

2025/8/8

2025/8/8

## 5 実践の概要・成果・課題⑫

## ④ 双葉学級と合同で取り組む安全教育

## ii 背い麦の子ふれあい事業「卒業生を送る会」での学習発表R06/2/7

## 《成果》

災害の場면을想定し、台詞も含めて体を動かして、繰り返し演じる（練習する）ことで、来場者の前で発表することで、プリント等を使った机上の学習や防災動画を繰り返し視聴するよりも、より確かな学習内容の定着につながった。令和7年度もR08/02/06で実施する予定。

## 《課題》

練習～本番～事後指導を通して、課題は見当たらないが、実際に大きな揺れの地震や津波、火災に遭遇した際に自宅や学校以外の場所で、一人の状況で、同じ行動がとれるかどうか課題である。

15

## 5 実践の概要・成果・課題⑬

## ⑤ 本学級のみで取り組む安全教育

## i 年度始めの始業式、入学式後の学活～学校生活の中で話題にする内容

資料 8 ページ 2 行目～

## 《概要》

事故等が起こってから指導するのではなく、始業式、入学式の日から指導をしている。朝の会では、その日の日課及び授業内容を確認し、生活事故を起こさないように気を付けることを簡単に伝えておく。給食時に気を付けることは、給食準備の前に、授業中に筆記用具や工具、刃物を使う際には、その前に等々、生活事故が起こりやすい場面では、その直前にも気を付けることを確認し続けている。

## 《成果》

大きな生活事故が起こることがなかった。生活事故の予防に大いに役立っていると思われる。2学期中頃からは、教師が気を付けることを伝える前に、生徒同士で気にかける、注意し合う場面も見られるようになってきた。

## 《課題》

教師の働きかけ（指導・支援）を外す見極めが難しい。それを外すことで、大きな事故、ケガにつながる可能性もあり、安全を優先すると、それを外すこと、生徒に任せきることができない。学習（指導された）内容が定着しているかどうか確認できない状況である。

16

15

16

## 5 実践の概要・成果・課題⑭

## ⑤ 本学級のみで取り組む安全教育

## ii 学活や総合的な学習の時間、理科や社会科の時間に取り組む安全教育

資料 8 ページ 25 行～

## 《概要》

学校全体・交流学年・交流学級では安全教育の中の自然災害とその防災・減災についてから学習をする。本学級のみでの取り組みでも、全体の内容に合わせて、安全教育の中の自然災害とその防災・減災についての学習からスタートをした。

学活や総合的な学習の時間、生活単元学習の時間に、NHK for schoolの安全教育コンテンツを視聴した。

「学ぼうBOSAI」「キミも防災サバイバー」…災害の仕組みと概要、防災・減災について  
「キキとカンリ」「子ども安全リアルストーリー」

…交通安全や学校生活の中での安全指導

「スマホリアルストーリー」「姫とボクはわからない」…SNS等からのトラブル云々

17

17

2025/8/8

## 5 実践の概要・成果・課題⑮

## ⑤ 本学級のみで取り組む安全教育

## ii 学活や総合的な学習の時間、理科や社会科の時間に取り組む安全教育

「学ぼうBOSAI」「キミも防災サバイバー」…災害の仕組みと概要、防災・減災について  
「キキとカンリ」「子ども安全リアルストーリー」

…交通安全や学校生活の中での安全指導

「スマホリアルストーリー」「姫とボクはわからない」…SNS等からのトラブル云々

## 《成果・課題》

災害の概要とその防災・減災については、過去の災害の概要と被害の状況、防災・減災のための対策を映像で見ることができた（成果）が、

それだけでは、ピンとこない？興味・関心が薄いようだった。（課題）

交通安全や学校生活の中での安全指導、SNS等からのトラブル云々については、身近な話題ということもあって、生徒同士で感想を述べる場面、フリートークで盛り上がる場面も見られた。（成果）

18

18

2025/8/8

## 5 実践の概要・成果・課題⑯

## ⑤ 本学級のみで取り組む安全教育

## ii 学活や総合的な学習の時間、理科や社会科の時間に取り組む安全教育

## 《概要》

並行して理科の授業の中でプリント等を使って自然災害の概要について、社会科の授業の中でプリント等を使って防災・減災に関する学習、避難所での生活、自助・共助・公助の学習にも取り組んだ。

同じ学習内容に繰り返し取り組んだからといって、学習内容の定着が図られるかというと、そうではない。彼らが学習課題に取り組み、1回でそれが定着することは、非常に稀である。繰り返し学習し、定着したと思われた内容でも、しばらくすると忘れてしまっていることが多々ある。

学習内容が定着するまで、繰り返し同じ問題に取り組む必要があるし、時間をおいてから覚えているかどうかを再確認する必要もある。短期的に、長期的に同じ学習内容、プリントに繰り返し取り組むことで、徐々に正答率が高まり、学習内容の定着が図られることを期待した。

19

19

## 5 実践の概要・成果・課題⑰

## ⑤ 本学級のみで取り組む安全教育

## ii 学活や総合的な学習の時間、理科や社会科の時間に取り組む安全教育

## 《成果・課題》

彼らの多くが、筆記用具を使って書き写す、問題文を読んで、考えて、解くということをして、著しく苦手になっている。意欲的な取り組みまでには至らなかった（課題）が、

同じ学習内容、プリントに繰り返し取り組むことで正答率が高まった。（成果）

20

20

## 5 実践の概要・成果・課題⑩

## ⑤ 本学級のみで取り組む安全教育

## iii 犯罪に巻き込まれない、犯罪を起こさないために、スマホやSNSの使い方に気を付ける。

資料9 ページ16行目～

令和6年度当初、本提案で取扱う安全教育の指導の内容には含まれていなかったが、  
闇バイト事件とその報道が頻発し、社会問題となる中で、  
生徒も関心を示すようになり、取扱うことにした。

21

## 5 実践の概要・成果・課題⑩

## ⑤ 本学級のみで取り組む安全教育

## iii 犯罪に巻き込まれない、犯罪を起こさないために、スマホやSNSの使い方に気を付ける。

## 《概要》

ニュースで話題になるSNSのトラブルの事案、闇バイトの話題など、報道番組の動画を視聴しながら、フリートークをした。日頃から、その手の話題を生徒に投げかけたり、生徒同士の会話に耳をそばだてたり、関与したりした。この手の話題に対する、生徒の興味・関心は非常に高かった。闇バイトやSNS上のトラブル等に巻き込まれないようにするための、千葉県警から出されているリーフレットや動画を使って学習した。

## 《成果》

本学級の生徒全員が自分のスマートフォンを所持している。生徒本人もインターネットでそういった情報を収集し、巻き込まれたくないという意識が強くなった。フリートークの内容によっては、教育相談を行ったり、保護者に連絡をしたりすることもあった。トラブルを未然に防いでいる可能性もある。

## 《課題》

この話題に関する指導に取り組む際に、学校生活にふさわしくない、取り上げにくい内容が含まれていたり、個人情報や家庭生活、家族の様子など踏み込んだ内容に話が及んだりすることがある。

22

21

2025/8/8

22

2025/8/8

## 5 実践の概要・成果・課題⑪

## ⑤ 本学級のみで取り組む安全教育

## iv 防災クイズの取り組み

資料9 ページ36行目～

## 《概要》

令和7年度からの取り組みである。

学活や総合的な学習の時間、理科や社会科の時間に取り組む安全教育の成果と課題を受けて、山口県教育委員会が作成した防災クイズをベースに、これまでに取り組んできた防災学習の学習内容を4択問題で100問用意し、問題冊子と解答用紙に分けて、テスト形式の防災クイズに取り組むようにした。

クイズという言葉からくる楽しさは、あまり感じられない、いかにもテストという様相で、生徒も乗り気ではなかったが、問題にひねりがなく、ひっかけもない、わからなかったとしても4択問題なので、解答を書き込むことができるため、

1回に付き、90分程度、授業2回分で取り組んでいた。

23

## 5 実践の概要・成果・課題⑪

## ⑤ 本学級のみで取り組む安全教育

## iv 防災クイズの取り組み

## 《概要》

2回程、取り組んだが、意欲があまり感じられなかったため、定期テストの試験科目に「安全防災テスト」で全く同じ問題を出題すること、その結果を保護者にも報告することを伝えた。テスト1週間前からは毎日、実施し、意欲的に？仕方なく？取り組むようになった。生徒によっては、問題を最後まで読まなくても、正解がわかるようになった。

## 《成果》

定期テストに合わせて、テスト形式で実施するようにしたことで、そこで点数を取ることが目標になり、防災に関する知識が広がった。

## 《課題》

テスト形式・講義形式で繰り返し取り組むスタイル、盛り上がらない、生徒からの評判は良いとは言えなかった。主体的な取り組みとは言い難くなってしまった。

24

22

24

## 6 まともと今後に向けて①

資料10ページ23行目～

本学級に在籍する生徒全員が、学習内容の定着を図るためには、資料2ページで述べた通り、繰り返し取り組むことが必要。暑い日が続く際の熱中症予防対策や注意報レベルの大雨・大風、登下校時の交通安全、学校生活の中での生活安全については、小さい失敗をすることはあっても、これまでの経験の積み重ねで、ある程度は対応できるだろう。

社会や理科の授業中で触れる、扱う安全教育の内容や防災クイズは、主体的な取り組みとは言い難く、やらされている感が強かったが、覚えなければならない学習として、繰り返し、取り組み続けることで、防災に関する知識は広った。

安全教育の学習内容を、教室、机の上、電子黒板等を使った授業の中で定着させることは難しかったが、小学校の頃から取り組み続けている避難訓練、朝の会や日々の授業、学校生活の中で必要に応じて、繰り返し指導し続けている生徒指導・日常生活指導的な関わり、寸劇「防災芝居クイズ」の発表に向けた取り組みでは、プリント等を使った机上の学習や防災動画の視聴よりも、効果的に効率よく覚えることができ、学習内容の定着につながった。

小中合同防災体験学習への参加、千葉県西部防災センターへの校外学習、本所防災館への校外学習は、災害の概要と正しい対処の仕方を安全に体験できる貴重な機会。経験していると、していないは、大きな違い。自然災害に遭遇する機会があれば、この経験が大いに役立つであろう。

25

## 6 まともと今後に向けて②

これまでの実践の成果を踏まえて、

## 仮説1

学校生活全体を通して取り組む安全教育に加えて、視聴覚教材を取り入れた学習・プリント等を使った机上の学習、自然災害の疑似体験ができる体験学習、ロールプレイング学習等々、様々な学習方法で計画的に取り組むことで、安全・防災に関する知識が広がるだろう。

## 仮説2

学校全体、学年毎、小学生と合同、学級単独等々、学習内容や学習方法、生徒の様子に合った学習単位（形態）で取り組むことで、安全・防災に関する興味・関心が高まるだろう。

仮説1・仮説2は、立証された。

大きな被害を伴う自然災害については、校外学習や動画の視聴等で学習はしているものの、それが定着しているかどうかを見極めるのは、災害に遭遇してみないと確認できない。見極める機会が来ないことが一番良いことなので、それを願うのみである。

26

2025/8/8

2025/8/8

## 6 まともと今後に向けて③

今回の研究の取り組みは、指定を受けたことによる受動的な始まりだったが、教員側が安全教育を系統的に指導することを意識しながら、実際に指導していくことで、生徒の安全・防災に対する意識が高まり、それに対する知識も広がったことが伺えた。この点からも、

## 仮説1

学校生活全体を通して取り組む安全教育に加えて、視聴覚教材を取り入れた学習・プリント等を使った机上の学習、自然災害の疑似体験ができる体験学習、ロールプレイング学習等々、様々な学習方法で計画的に取り組むことで、安全・防災に関する知識が広がるだろう。

## 仮説2

学校全体、学年毎、小学生と合同、学級単独等々、学習内容や学習方法、生徒の様子に合った学習単位（形態）で取り組むことで、安全・防災に関する興味・関心が高まるだろう。

仮説1・仮説2は立証されたとと言える。

27

## 6 まともと今後に向けて④

主題設定の理由で、本学級の生徒が、

①地域の一人として、目覚ましい活躍を見せたり、存在感を見せつけたりしていくことは難しいだろう。

②周囲に迷惑をかけることなく、周囲から最小限の支援で避難する、安全に学校生活を過ごす、地域で事故やトラブルに巻き込まれないように過ごすことを目指し、安全教育に取り組んでいく。

と述べた。

1年半の実践で、

②周囲に迷惑をかけることなく、周囲から最小限の支援で避難する、安全に学校生活を過ごす、地域で事故やトラブルに巻き込まれないように過ごすことは、

充分達成されている。

28

## 6 まとめと今後に向けて⑤

難しいと考えていた、

①地域の一員として、目覚ましい活躍を見せたり、存在感を見せつけたりしていくこと。

についても、双葉学級と合同で取り組む安全教育を通して、実際に災害に遭った際、彼らが避難所へ向かう途中で、避難所の中で、年少の子どもの面倒をみることで、あろう様子を垣間見ることができた。予想を超える成果を上げているといえる。

大きな成果を上げることができた。

安全教育の研究指定校として、残すところ半年であるが…

これまでの実践を継続するとともに、ここまで、本学級では全く取り組めていない、地域連携・家庭連携にも取り組んでいきたい。

安全点検についても、教員が実施している安全点検と併行して、生徒用机とイス、ロッカー、下駄箱、教室、廊下、トイレ等々、生徒自身が生徒目線で安全点検を実施し、

自分自身の持ち物や校舎、備品等に対する安全意識をさらに高めさせることができるようにしていきたい。

ご清聴ありがとうございました。

## 参考文献等

- ・ 中学校学習指導要領 文部科学省 / 特別支援学校学習指導要領 文部科学省
- ・ 「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育 文部科学省
- ・ 図解でわかる14歳からの自然災害と防災 社会応援ネットワーク
- ・ 千葉県西部防災センター / 千葉県防災ポータルサイト
- ・ POLICE NET CHIBA 千葉県警察
- ・ 防災紙芝居 総務省消防庁
- ・ クイズで防災を学ぼう 消防庁動画チャンネル
- ・ 防災クイズ 山口県教育委員会 / NHK for school
- ・ 防災学習ポータルサイト 国土交通省
- ・ おうちで防災を学ぼう！リモート防災学習 東京消防庁
- ・ 本所防災館（東京消防庁 都民防災教育センター）